

コートジボワール

Republic of Cote d'Ivoire

	2012年	2013年	2014年
①人口：2,270万人（2014年）			
②面積：32万2,462km ²			
③1人あたりGDP：1,495米ドル （2014年）			
④実質GDP成長率（%）	10.7	9.2	8.5
⑤消費者物価上昇率（%）	1.3	2.6	0.4
⑥失業率（%）	n.a.	n.a.	n.a.
⑦貿易収支（100万CFAフラン）	1,565,600	1,479,200	1,911,700
⑧経常収支（100万CFAフラン）	△163,700	△208,800	225,600
⑨外貨準備高（100万米ドル）	3,928	4,243	4,479
⑩対外債務残高（グロス） （100万CFAフラン）	3,839,900	4,303,400	4,772,700
⑪為替レート（1米ドルにつき、 CFAフラン、期中平均）	510.53	494.04	494.42

〔注〕③～⑤⑦⑧の2014年は推計値、⑦：国際収支ベース（財のみ）
〔出所〕①②④～⑥⑩：経済財政省、③⑨⑪IMF、⑦⑧：経済財政省・西アフリカ諸国中央銀行

■ 西アフリカで最も高い成長を達成

2014年のコートジボワールの実質GDP成長率は8.5%（推計値）で、西アフリカでは最も高い経済成長率を達成したとみられる。政府は政治・社会情勢の安定化を図るとともに、投資環境の改善と外国企業誘致に積極的に取り組んでおり、2012年以降は8～10%の高い経済成長が続いている。

産業別では、原油生産の減少により鉱業や石油精製が不調だったほか、燃料調達コストの増加でエネルギー部門がマイナス成長となった。しかし、その他の産業は総じて好調で、農業・畜産や建設、商業が成長を牽引した。

需要項目別では、最低賃金や公務員給与の引き上げ、換金作物の最低買取価格の設定による農家の所得拡大を背景として、民間最終消費支出は9.8%増となった。政府最終消費支出は、教育、保健衛生、治安対策等で支出が増加し11.5%増となった。生産設備の更新や増強が続く民間投資は27.0%増、公共投資も高速道路や水力発電ダム等のインフラ整備により5.2%増となった。

■ 輸出入総額減も貿易黒字は拡大

2014年の貿易（通関ベース）は、輸出が前年比5.3%減の6兆4,215億CFAフラン（以下FCFA）、輸入が11.9%減の5兆5,309億FCFAとなった。石油プラットフォーム

等の特殊用途設備の輸入・再輸出の大幅減少が押し下げ要因で、同設備を除く財貨の輸出入はそれぞれ9.8%増、5.6%増となり、貿易黒字は前年比75.8%増の8,906億FCFAに拡大した。

輸出ではカカオ豆が最大品目で（構成比23.5%）、生産量が167万トンを超え過去最高水準に達し、国際価格も高値で推移したことから、輸出額は前年比13.9%増となった。カカオ調製品は現地加工率が向上し、金額、数量ベースでそれぞれ28.4%増、12.7%増となり、輸出額に占める割合も前年の9.0%から12.2%に拡大した。輸出の25%を占める工業製品は、石油製品やセメント、プラスチック製品が近隣諸国で需要が高く増加傾向にある。鉱物資源では金が22.3%増であったが、原油は生産減と油価の下落で31.9%減となった。

輸入は、前年に続いて原油が構成比23.4%で最大品目となったが、金額、数量ベースでそれぞれ10.5%減、7.6%減となった。油価の下落に加え、国内製油所の生産調整や設備改修・増強工事で一部生産ラインが止められたこと、最大の調達先であるナイジェリアで海底パイプラインが破損し主要石油ターミナルが操業停止となったことが減少の主因となった。その他の主要輸入品である一般機械、道路輸送用機械、鉄鋼、医薬品などは生産活動の活発化と内需拡大を反映し前年比で増加となった。同じく主要輸入品であるコメは、輸入量は増加したものの、国際価格の低迷により輸出額は7.2%減少した。

国別では、オランダが最大の輸出相手国で（構成比10.0%、前年比12.0%増）、主要品目のカカオ豆・調製品、パーム油が増加したほか、新たに金が上位を占めた。次いで米国（構成比8.4%）はカカオ豆・調製品、石油製品が前年比16.4%増となった。ナイジェリア（4.7%）は石油製品の輸出が落ち込み31.6%減となった。輸入は、前年に続きナイジェリアが最大の相手国となったが、原油

表1 コートジボワールの需要項目別実質GDP成長率

（単位：%）

	2012年	2013年	2014年
実質GDP成長率	10.7	9.2	8.5
民間最終消費支出	10.9	7.4	9.8
政府最終消費支出	35.4	△2.1	11.5
国内総固定資本形成	47.0	20.8	16.6
財貨・サービスの輸出	△1.6	5.7	4.1
財貨・サービスの輸入	34.8	5.8	3.8

〔注〕2014年は暫定値。

〔出所〕経済財政省

表2 コートジボワールの主要品目別輸出入<通関ベース>
(単位:100万CFAフラン、%)

	2013年		2014年	
	金額	金額	構成比	伸び率
輸出総額 (FOB)	6,782,296	6,421,505	100.0	△5.3
カカオ豆	1,322,206	1,505,896	23.5	13.9
石油製品	955,112	980,762	15.3	2.7
カカオ調製品	609,467	782,533	12.2	28.4
カシューナッツ	157,985	391,841	6.1	148.0
金	284,153	347,605	5.4	22.3
原油	473,550	322,461	5.0	△31.9
輸入総額 (CIF)	6,275,566	5,530,932	100.0	△11.9
原油	1,444,917	1,292,625	23.4	△10.5
一般機械	401,719	431,055	7.8	7.3
鉄鋼	208,834	269,505	4.9	29.1
コメ	233,164	216,373	3.9	△7.2
プラスチック製品	189,030	209,092	3.8	10.6
輸送機械	157,627	193,510	3.5	22.8

[注] 2014年の数値は暫定値。

[出所] コートジボワール税関総局

の輸入が減少したことで15.6%減少した。中国は主要品目の電気機器や化学品、鉄鋼の輸入減が響き32.0%減となり、フランスに抜かれ3位に後退した。

西アフリカでは貿易自由化に向けた動きが進んでおり、15カ国が加盟する西アフリカ諸国経済共同体(ECOWAS)は、2015年1月に関税同盟を発足させ、対外共通関税を導入した。また、EUとの経済連携協定(EPA)は2014年10月に原則合意に達し、発効に向けてECOWAS加盟各国の批准が待たれる。

■多様化する投資元国と投資分野

コートジボワール投資促進センター(CEPICI)の投資認可ベース統計(国内資本を含む。鉱物資源・石油・ガス探査と開発、不動産・建設・公共土木事業、金融・銀行・保険サービス部門を除く。商業、輸送は5億FCFA以上の案件のみが対象)によると、投資件数は前年比32件増の158件、金額は17.0%減の約4,263億FCFAとなった。金額の減少は、前年に電気通信分野で総額約2,000億FCFAの大型投資案件が3件あった反動による。業種別では前年に続き電気通信が最大で、食品加工、ホテル・外食、輸送、化粧品・衛生用品が上位を占める。国別では国内資本が最大で(構成比38.8%)、モーリシャス(26.5%)、フランス(11.8%)、レバノン(5.3%)、トルコ(3.0%)、モロッコ(2.5%)と続き、投資元国数では前年から12カ国増加し35カ国・地域となった。近年、マダガスカルや中東諸国からの投資が増加傾向にあり、貿易とともに投資でもパートナーの多角化が進んでいる。

資源開発やインフラ開発に加え、旺盛な消費を取り込もうと、食品や消費財分野への投資が活発化している。ユニリーバ(英国・オランダ)は45億FCFAを投じて生産能力1万2,000トンのマヨネーズ工場を建設、国内市場

と近隣諸国で販売する。イスラエルのリナグループは、生産能力60トン/時のパーム精油工場を100億FCFAかけ建設した。オランダのハイネケンは、豊田通商が出資するフランス商社CFAOと提携してビール醸造に乗り出す。CFAOはロレアルとも化粧品の生産・販売で提携、コートジボワールの化粧品メーカーのシコベルを買収して西アフリカでの体制を強化する。モロッコのドリドルは寝具工場を建設し、近隣諸国への輸出も計画している。そのほか、小売りや金融、保険などの分野でも外国企業主導の業界再編の動きが活発化している。

投資が活発化する一方で、工業用地の不足や利用料の上昇、最低賃金や電力料金の引き上げによる生産コストへの影響が懸念される。また、2015年10月の大統領選挙の平和裏な実施が期待される。

■増加する対日輸出、日本企業も活動を強化

2014年の対日貿易は、輸出が40億6,200万FCFA(前年比31.3%増)、輸入が961億500万FCFA(2.6%減)となった。品目別では、カカオ調製品が最大の輸出品目で、金額、数量はそれぞれ前年比90.1%増、76.6%増となり、構成比も前年の5割強から約8割にまで拡大した。日本からの輸入では、内需拡大を反映して、乗用車(前年比12.0%増)、医療・測定・検査用機器(25.6%増)などの耐久消費財や資本財の増加が引き続き目立っている。また、建設・土木分野の成長が続いていることから、セメント用クリンカー(41.7%増)や圧延メッキ鋼板(13.8%増)などの建設資材の輸入が増加した。

高い経済成長が続く中、日本企業の活動も活発になっている。三菱商事は2014年9月に、同国沖合の石油・ガス探査区画の権益の20%を米アナダルコから取得すると発表した。丸紅は2015年4月に駐在員事務所を開設し、2012年には2社だった日系進出企業数は4社となった。そのほか、メーカーを中心に既存の代理店との関係強化や、新規パートナー発掘などの動きがみられる。

表3 コートジボワールの対日主要品目別輸出入<通関ベース>
(単位:100万CFAフラン、%)

	2013年		2014年	
	金額	金額	構成比	伸び率
輸出総額 (FOB)	3,094	4,062	100.0	31.3
カカオ調製品	1,624	3,087	76.0	90.1
カカオ豆	1,325	589	14.5	△55.5
輸入総額 (CIF)	98,702	96,105	100.0	△2.6
乗用車	37,233	41,713	43.4	12.0
乗用車以外の車両・部品	14,654	11,268	11.7	△23.1
機械機器	14,165	10,073	10.5	△28.9
セメント用クリンカー	5,831	8,261	8.6	41.7
スラグサンド	8,455	6,441	6.7	△23.8

[注] 2014年の数値は暫定値。

[出所] コートジボワール税関総局